

(様式6)

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年10月17日

### 【評価実施概要】

事業所番号	2870902273		
法人名	医療法人社団平生会		
事業所名	グループホーム みどりの風		
所在地	西宮市大畑町2番13号 (電話)0798-69-0100		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年8月27日	評価確定日	平成19年11月14日

【情報提供票より】 (19年7月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	20 人	常勤 9 人, 非常勤 11人,	常勤換算 5.3人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての 2~3 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	110,000 3階150, 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有 2階 660,000 3階 900,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	円	おやつ	300 円
	または1日当たり		1,500 円	

### (4) 利用者の概要 (7月1日現在)

利用者人数	15 名	男性	1 名	女性	14 名
要介護1	2	要介護2	6		
要介護3	4	要介護4	3		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 82,7 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮本クリニック 柳澤クリニック たかみ歯科医院 西宮協立脳神経外科
---------	-----------------------------------

### 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

阪急「西宮北口」駅が近く、住みよさと便利さを兼ね備えた地にホームは建っており、ホーム内は明るく清潔感あふれ、ほのぼのとした安らぎが感じられる。地域密着型サービスの理念を明確に掲げ、家庭的な環境と地域住民との交流を大切にしている。利用者全員が自治会に加入し、自治会の行事や活動に参加する等地域にしっかり溶け込んでいる。開設以来管理者を始め職員の異動や退職がほとんどなく、利用者や家族と職員の間には馴染みの関係が十分にできており、利用者は穏やかな表情で日々過ごしておられる。医療法人を母体としており医療連携体制が充実し、月2回の往診や週1回の看護師訪問があり、24時間連絡体制にて疾患の重度化や終末期にも対応できるよう取り組んでいる。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 昨年度の第三者評価結果を職員等と機会あるごとに話し合い、出来る事から改善に向けて取り組んでいる。昨年度は介護計画の見直し時期において不定期になっている時期もあった為、現在は3ヶ月に一度定期的に見直しを実施している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 今回の自己評価を日常のケアの振り返りや見直しと捉え、常勤職員全員が個々に自己評価作成に取り組み管理者がまとめを行った。評価結果を全職員で話し合い質の向上に活かされ、運営推進会議や家族会等で自己評価・第三者評価の結果を開示し、事業所運営の理解に繋がれることを期待する。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 家族会代表、民生委員、他施設関係者、市の担当者等の参加のもと、現在までに5回実施されている。ホームの現状や活動内容、介護保険制度の改正等についての報告や会議のメンバーから多くの率直な意見を得て、地域の理解と支援を得るための努力をしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) ホーム内に「皆様の声」という意見箱を設置し、重要事項説明書には苦情相談機関を明記している。また日常においても家族等が意見や苦情を伝えられるような雰囲気作りを心がけている。家族等の意見・苦情等はミーティングで取り上げ、改善に向けて取り組んでいる。また苦情相談記録表に記載し、職員全員が把握し、運営に反映させる取り組みがなされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 利用者は全員自治会に加入し、地域の行事や地域活動に参加している。また、老人クラブとのカラオケ交流も行っている。管理者はキャラバンメイトとしても活動され、老人クラブ対象に認知症に関する講演も実施している。ビューティークアや大学生による音楽療法、折り紙等のボランティアが来訪し、入居者との交流の時間を作っている。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境と地域住民との交流を明確に示した、事業所独自の具体的な理念が作られている。理念はパンフレットやホーム内に明示され、利用者や家族・来訪するすべての人々に伝えている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日々の業務の中で事あるごとに職員に理念を伝え、理念を行動化できるよう努めている。		パートを含むすべての職員に理念が浸透し、共有できる取り組みが望まれる。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は全員自治会に加入し、地域の行事や地域活動に参加している。また地域の老人倶楽部とのカラオケ交流も行っている。管理者はキャラバンメイトとしても活動され、老人クラブ対象に認知症に関する講演も実施している。中学生の「トライやるウィーク」の受け入れ、ビューティーケアや大学生による音楽療法、折り紙等のボランティアが来訪し、入居者との交流の時間を作っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>昨年度の第三者評価を事務室の窓口に置き、誰でも閲覧できるようにしている。家族への便り「風の便り」の中に、ワムネット掲載のお知らせをしている。昨年度の第三者評価結果を職員等と機会あるごとに話し合い、出来る事から改善に向けて取り組んでいる。今年の自己評価については、常勤職員全員が個々に記入し管理者がまとめを行った。スタッフは日々よく観察し評価の意義をきちんと把握できている。</p>		<p>評価結果を全職員で話し合い、日々のケアの振り返りとして評価を活かしていく取り組みの継続が期待される。また、家族会・運営推進会議等で自己評価・第三者評価の結果を開示し、事業所の質の向上に向け活かされることを期待する。</p>
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域包括支援センター・市の担当者・家族会代表・民生委員・他施設関係者・当管理者等のメンバー構成のもと、現在まで運営推進会議を5回実施している。ホームの現状や活動状況、介護保険制度の改正について等の報告をし、会議のメンバーから多くの率直な意見を得て、地域の理解と支援を得るための努力をしている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>西宮グループホーム連絡会の代表としても市との連携を行い、サービスの質の向上に役立っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問時に利用者一人ひとりの日々の生活の状況を知らせたり、ケース記録のコピー、身体状況、金銭管理等を、毎月発行する「風の便り」と共に郵送する等、個々の家族にあわせた報告を行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内には「皆様の声」という意見箱を設置し、重要事項説明書には苦情相談機関を明記している。また日常においても家族等が意見や苦情を伝えられるような雰囲気作りを心がけている。家族等の意見・不満・苦情はミーティングで取り上げ、改善に向けて取り組んでいる。また苦情相談記録表に記載し、職員全員が把握し、運営に反映させる取り組みがなされている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設以来、オープニングスタッフがほとんどで、正職員・常勤パートとも離職はない。</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内外の研修の受講機会を積極的に進め、各職員が立場や経験に応じた段階的な外部研修を受講している。内部研修も年3回計画している。外部研修に関して研修費・交通費等のサポート体制が整っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のグループホーム連絡会があり、利用者・職員共に同業者との交流を行っており、情報を交換しながらサービスの質の向上に努めている。その活動の一環として勉強会を開催する予定がある。</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に納得のいくまで本人に見学してもらったり、管理者や職員が利用者の自宅に向くなどして、十分コミュニケーションを取り、雰囲気や場作りを行い、不安なく入居できるよう配慮している。病院から退院後すぐに入居される方には面会訪問をしたり、また老人保健施設に出向き、ケースワーカーと面談をするなどして、本人の心身の状況を把握し、徐々に馴染めるよう工夫している。</p>		
<p><b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b></p>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者一人ひとりの生活歴や生活背景を十分に把握した上で、職員は利用者とふれあいをもちながら、生活の場面や行事・外出を共にし、支え支えられる関係作りができています。以前華道の先生だった人にはホーム内のお花を活けてもらっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>自宅訪問・病院訪問時の家族やケースワーカーからの情報収集や、入居後も本人の希望や意向を確認しながら、より深く利用者一人ひとりの思い・希望・意向の把握に努めている。</p>		
<p>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族、職員等からの情報により作成されたケアチェック表等を参考に担当職員がアセスメントを行い、計画作成担当者との共有にて、理念にそった利用者一人ひとりの介護計画を作成している。家族の面会時等に介護計画の説明を行い、同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>担当職員・計画作成担当者である管理者等が各フロアの職員と共にカンファレンスを実施し、3ヶ月に一度の見直しが行われている。利用者の心身の変化や本人・家族の要望に応じて現状に即した随時の見直しを行っている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制を整え、入居者の日常の健康管理を行うとともに医療ニーズへの迅速な対応ができるよう体制を整えている。入居者の入退院時の送迎や特別な外出等の支援に柔軟に対応している。かかりつけ医への通院は状況に応じて職員が付き添う等配慮している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人で月2回の往診等協力体制が整い、入居者とのコミュニケーションを大切に心身の状態の把握に努めている。入居者がかかりつけ医の受診を希望すれば柔軟な支援を行っている。週に1回看護師が訪問し、入居者の日々の健康状態に対しホームと情報を共有するとともに、24時間オンコール体制で相談に応じている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去にターミナルケアの経験があり、入居者が重度化した場合は本人や家族の意向を尊重し、主治医との連携が図れるよう支援体制を整えている。		入居者の重度化や終末期に対するホームの指針が文書化されたため、今後入居者・家族に説明し同意が得られるよう働きかける予定である。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を重視し一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮したケアが実践できるよう、職員間で声を掛け合い確認しあっている。ホーム便り等の写真の掲載については事前に家族の了解を得て発行している。居室では、入居者の希望があればカーテンで間仕切りできるような設備面での工夫がある。職員は個人情報保護についてホームと誓約書を交わし秘密保持を徹底している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの理念にそって入居者一人ひとりの生活リズムを尊重し、それぞれの個性を大切に支援が行われ、起床・食事・入浴等本人のペースにそったケアを行っている。透析治療を受けている入居者は、体調や治療の状態に応じて柔軟な対応ができるよう配慮している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については外部業者への委託を基本としているが、朝食はホームで作り、誕生会等では家族を招待しメニューにも変化を持たせている。また外食や弁当などを適宜取り入れ食事を楽しむ為の工夫が見られる。入居者の生活歴や習慣・希望を尊重しながら職員と共に配膳・下膳やおやつ作りを行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日の入浴が基本であるが、入居者の希望があれば状況に応じて毎日の入浴も可能で、併設のデイサービスの入浴利用の支援もある。入浴はプライバシーに配慮した介助を心がけ異性の職員の介助については入居者の意向に沿った対応を心掛けている。入浴拒否傾向の人へは職員間で声掛けを工夫したり別の職員で対応する等試みている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの行事は毎月の便りで家族に案内し、参加を促している。ボランティアの協力も得て生け花・手芸・折り紙工作等定期的なレクリエーションを取り入れている。心身機能の維持の為に入居者一人ひとりに合った役割を見出すとともに、毎日の嚙下体操やリハビリ体操の実施を継続している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間の行事予定に沿って年2回のバス旅行・外食・喫茶店でお茶を飲む・老人クラブでの交流などがあり、入居者の身体状況に応じて車イスでの外出支援も行っている。		入居者の意向に沿った近隣への散歩や外出等の機会を増やしていけるよう、職員の勤務体制を工夫する等検討していく事を期待する。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関は外から入る事は出来ないが、ホーム内から外部へ出る事は可能な状況である。エレベーターは開放しユニット毎のドアも開錠しており、安全面に配慮したセンサーによる出入りの把握を行っている。		
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事務所に自動通報装置の設置があり、避難訓練は入居者の一部も参加し、消防署の指導のもとに年1回実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者の栄養士が栄養バランスやカロリーに配慮した献立を作成している。入居者の食事摂取量はその都度把握し記録している。慢性疾患の治療を継続している入居者へは、体調に配慮した食事の調整を行っている。水分摂取は脱水による体調の変化を理解し、日中の水分摂取のみでなく夜間も飲み物を居室に設置し、水分の確保に努めている。必要に応じて水分摂取量を記録し健康状態の把握に活かしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はバリアフリーで廊下等に適宜長いすを設置し入居者が自然な形でくつろげるよう配慮している。またユーティリティーコーナーを設け、個々の希望に沿って家事や趣味の時間を過ごせるよう工夫している。ホーム内は入居者が生けた花が季節を感じさせ、壁面に掲示している入居者の写真や作品は、家庭的な印象を壊さないよう掲示場所等を工夫し飾られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や家族の希望にそって、居室には入居者の作品・家族の写真・椅子やテーブル・テレビ等持ち込み、一人ひとりの思いを大切にくつろげる部屋になるよう支援している。		

は、重点項目。